



特集 潤いと光ある鴻巣教育の実現を目指して

市内すべての小・中学校に「最先端のICT」を導入 学校でも家庭でもPCを “文房具のように”使える環境に

問い合わせ／学校支援課指導担当（内線3315）

国のGIGAスクール構想「1人1台のPCを整備」

近年、国際競争の主産業が、従来の工業からICTにシフトしたことにより、日本の国力が低下していると言われていきます。さらに、世界的な調査によると、日本の学校の授業でのデジタル機器の使用時間は、OECD加盟国37か国の中で最下位となっています。

国は、この状況に危機感を持ち、強力にICT化推進政策を進めることとなりました。その一つが「GIGAスクール構想」です。

なぜ教育の情報化が必要なのか？

今の子どもたちは、どこに行ってもICTがある社会に巣立っていきます。そのような情報社会の中で、悪影響や危険性を恐れてICTを遠ざけるのではなく、モラルを持った前向きな使い方を学んだうえで、社会でいきいきと活躍し、幸せな生活を送るためには、身近な道具としてICTを使うスキルが必要です。

さらに、ICTは、子どもたちの「ひらめきや発想」が新しい社会的価値を生み出していくための日常的な道具になります。そして何よりも、子どもたちが自ら未来を切り開くために必要なものになります。そのために、教育の情報化を推進し、言語能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成することが求められています。

本市独自の取組を実施

市では、国のGIGAスクール構想が立ち上がる前に「学校教育情報化推進計画」を策定し、子どもたちがICT機器を文房具のように日常的に使える環境を実現するため、独自の取組を多数実施しています。次ページ以降でその一部を紹介します。

用語解説

- GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想
「1人1台のPCと高速通信ネットワークを整備し、子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正・確実な教育環境の実現」や「今までの教育と最先端技術を融合することで、教師と子どもたちの力を最大限に引き出す」こと
- ICT (Information and Communication Technology)
情報通信技術のこと
- OECD
経済協力開発機構。1948年、世界経済の発展等を目的に設立



子どもたちが使うPCはコレだ!!

タフで頼りになる相棒
「デル Education モデル」



◀背面カメラ付きなので
外での授業でも活躍!

パイロット校の成果を全校へ
市では、全国に先駆け、令和3年1月に「鴻巣市ICTパイロット校」5校（鴻巣中央小・大芦小・広田小・鴻巣南中・赤見台中）を指定し、1人1台のPC（パーソナルコンピュータ）活用を実践しました。そこで得られた経験を全校に展開することとし、今年度から、すべての小・中学校で子どもたち1人1台の学習用PCの導入と高速大容量の通信ネットワークの整備が実現しました。
今後、この新たな教育環境のもと、子どもたちがICTを正しく安全に使いこなすための体制を整備していきます。



鴻巣版 GIGA スクール
イメージキャラクター

ここがすごいよ！ 鴻巣市のICT教育

鴻巣市は、国のGIGAスクール構想を最大限活用したうえで、市独自の取組を多数実施しています！
ここでは、4つの取組を紹介します。

1 最先端技術を国内で最初に整備

最先端のICT環境を多数整備。その中でも「学術情報ネットワークSINET※」と「Microsoft Azure」を接続したのは全国で初めて。また、システムをすべてネットワーク上に構築（フルクラウド化）したことにより、先生や子どもたちは、学校外からでも教材コンテンツやデータにアクセスが可能になりました。安全・快適な環境は最先端のネットワークやシステム等（インフラ）に支えられています。

2 新しい学びのカタチ

子どもたち1人ひとりの学力や個性に合わせた学習ができるドリル教材「ミライシード」を全児童・生徒に提供し、個別学習を充実。

協働学習ソフトなども発達段階に応じて活用できるよう整備し、互いの考えを共有し、思考を深めるための学習を支援。

さらに、圧倒的な情報量と信頼性のある百科事典ソフト「ブリタニカ」を導入。子どもたちの好奇心を刺激し、主体的な学びを支援します。

3 人“財”の育成

子どもたちをICT機器の善き使い手に導くためのデジタルシティズンシップ教育を実施。デジタルシティズンシップ教育とは、ICTを利用するうえで、自ら考えながら適切で責任ある行動規範を身に付けることです。

4 先生のワークライフバランスの向上で子どもと向き合える時間を

成績処理・文書事務等を行うシステム（統合型校務支援システム）や先生が使用するPCやその周辺環境を刷新。事務の効率化やペーパーレス化等を実現します。




小学校の授業を覗いてみました

個別の学習



1年生の算数の授業

時計の読み方を学習するために「ドリル学習」を活用しています。ピンポン  という正解音が鳴るととても嬉しそうです。



4年生の国語の授業

調べた内容を、自分の課題に合った方法で、まとめています。表計算ソフト「エクセル」を使い、円グラフや棒グラフを作成しています。

校外での学習



2年生の生活科の授業

「春をさがそう」をテーマに各自 PC を使い、校庭で見つけた植物等を撮影しています。写真を見せながら説明することで、自分の考えを伝えるツールとしても役立ちます。

海外との交流



6年生の外国語の授業

オンラインビデオ通話を通して、マレーシアの小学生と、英語でコミュニケーション。友達の会話を学級全体で共有し一喜一憂しながら楽しんでいます。



初めてなので、緊張しています。マレーシアの友だちとつながれてうれしいです。これから端末が使えるので、自分たちの端末でも外国の友だちとつながってみたいです。

授業後の子どもたちの感想より

これからふつうに外国の子どもたちとつながるような日々になってほしいです。





使ってみてどうですか？

使ってみた感想を子どもたちや先生に聞いてみました。



自分のPCで花の写真を撮ったよ！

子どもたちの声

PCを調べ物をするときにもっと役立てたい。タイピングがもっと出来るようになりたい。

教科書やノートだけの授業よりもパソコンを使う授業は面白いし、楽しい！わからない事を自分で調べて、解決できた！

PCを使っの授業は大盛り上がり！分からないことがあったら、先生に聞いたり、時には友達同士で教えあったりしています。

先生がPCを開くと声をかけると、子どもたちは慣れた様子で操作を始めます。高学年になると、タイピングをするのもとっても速い！！



先生の声

PCは、子どもたちが自分の考えや意見を伝えるのにも良いツールになると思います。言葉にするのが苦手な子でも、お気に入りの写真を友達に見せたり、自分が描いた絵などを写真に撮って家族に見せたりすることができます。

子どもたちの適応力がすごく、操作も含めて新しいことをどんどん吸収しています。例えば、自分で壁紙を設定できるというのは、私たちが教える前に、子どもたちの間で教えあって広まりました。

子どもたちを見習って、私たちも楽しんで新しいことを覚えられれば良いなと思います。また、先生同士も積極的に情報交換をして、さらに良い授業ができればと考えています。

どんどん広がるこれからのICT教育

教室

○子どもたち

PCを**日常的**に自由に活用

【算数、英語】

- ・一斉授業と個別最適化学習（ドリル教材）の活用

【英語】

- ・海外の子どもとオンライン交流
- ・ICT機器を利用した発音チェックや聞き取り

【国語、社会、理科】

- ・協働学習ツールを利用し、個人の考えや発言を見える化

【その他】

- ・授業の成果物を学習の履歴として保管・共有

○教職員

- ・子どもたちの情報をPCで記録し、システム連携
- ・大型提示装置（電子黒板）で、教材や動画を提示

自宅

○子どもたち

- ・家庭学習で、学校で使用しているドリル教材を使用

○保護者

- ・子どもの欠席を電子連絡
- ・保護者連絡や学校だより等を閲覧
- ・保護者会等の出欠をオンラインで回答

○教職員

- ・テレワーク環境を整備し、ワークライフバランスの向上

職員室

○教職員

【事務管理】

- ・スケジュールや出退勤等を、電子で管理

【子どもたちの情報】

- ・子どもたちの出欠状況等がすべてシステムに連携

【教材作成、授業準備】

- ・子どもたちの学習履歴を閲覧し、授業作りに活用
- ・良い活用事例等について、簡単に共有できる仕組みを整備

【事務】

- ・採点支援システムにより、採点業務の効率化と結果の電子化

【会議、研修】

- ・電子会議の利用で出張不要、ペーパーレス化
- ・いつでもどこでも学べるオンライン研修を導入
- ・各種研究会等をオンライン上で行う

地域の人々

- ・各学校のホームページに情報が積極的に公開され、学校や地域の情報を取得